

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	必修	講義	猪俣 寛子	-	30
科目名	関係法規・制度				
学習目標	<p>1、美容師の業務に係る衛生法規・制度について正しい知識を習得させ美容師の社会的責務、職業倫理について促し、学ぶ。</p> <p>2、美容の業務に関する規定内容を正確に理解させ、衛生法規が美容業を行う場合の指針として有する意義を把握させる。</p>				
授業内容	<p>衛生行政の概要</p> <p>①衛生行政の意義と歴史</p> <p>②衛生行政の分類と生活衛生行政の内容 我が国の行政の仕組み、国の行政と地方の行政との関連などについて理解させる。</p> <p>③衛生行政を担う行政機関 衛生行政の種類など衛生行政の意義について学ぶ。</p> <p>美容師法・理容師法 美容師がどのような沿革を経て現在の姿になったかを知らせ、これらの法律の目的と意義について理解させる。</p> <p>①用語の定義 法律でどのように定義されているか理解させる。</p> <p>②理容師美容師に関する規定 免許制度、免許手続き、免許の欠格要件、免許の登録などを理解させる。</p> <p>③施設に関する規定 業務上の遵守事項、業務を行う場所などに関する法律の規定について理解させる。</p> <p>④立入検査と環境衛生監視員 美容所の開設、届出、施設の検査確認、美容所が講じなければならない衛生措置に関する規則の内容を理解させる。</p> <p>⑤違反者に対する行政処分 免許取消、業務停止、などの内容を理解させる。</p> <p>⑥罰則 罰則についての内容理解。</p> <p>関連法規</p> <p>①運営に関連する法律      ③消費者に関連する法律</p> <p>②衛生に関連する法律</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得				
評価方法	定期試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	必修	講義	竹之内 三枝子	美容室で4年以上の実務経験	90
科目名	衛生管理				
学習目標	1、美容師が公衆衛生の維持と増進について重大な責務を担わなければ理由を十分に理解させ、感染症予防、環境衛生の保持、美容所における消毒の意義と目的について学ぶ。				
授業内容	<p>公衆衛生・概要</p> <p>①公衆衛生の意義について理解させる。公衆衛生が日常生活、あるいは美容とどのように結びつくか、公衆衛生の発展工場のために何をすべきかを理解させる。</p> <p>②公衆衛生の発展の歴史を概観し、公衆衛生の思想がどのように発展してきたかを知らせる。</p> <p>③对人的な予防衛生と対物的な環境衛生とに大別されることをしらせ、さらに環境衛生が健康で文化的な生活の基盤のなすものであることを理解させる。</p> <p>④保健所の機能、業務などにつて知らせ、美容所と保健所の密接な関係を理解させる。</p> <p>環境衛生</p> <p>①環境衛生の意義と内容を理解させるとともに美容所において特に注意しなければならない点を理解させる。</p> <p>②美容所の衛生措置、特に消毒の意義について感染症対策と関連付けて学ぶ。</p> <p>③美容所の廃棄物処理、環境保全対策について理解させる。</p> <p>感染症</p> <p>①美容の業務を行う上でどのような感染症に注意すべきか具体的に示し、予防対策について系統的に理解させる。</p> <p>②美容所における衛生措置、とくに消毒について、感染症対策と関連づけて理解させる。</p> <p>衛生管理技術</p> <p>①美容所における衛生管理、特に消毒の意義と目的について理解させる。</p> <p>②消毒方法の種類、原理、特徴について具体的に説明。</p> <p>③美容器具などの対象の材質、構造などに応じ、適切な消毒の選択と適正な実施方法について学ぶ。</p> <p>学習指導上の留意事項</p> <p>①必要に応じて、ビデオなどの視聴覚教材を用い実験を行ったりして学習効果を高める。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得				
評価方法	定期試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	必修	講義	松田 久美子	美容室で4年以上の実務経験	90
科目名	保健				
学習目標	<p>①美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚、毛髪などの構造と機能に関する科学的系統的な知識を学ぶ。</p> <p>②美容の業務を安全かつ効果的に行うには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させる。</p>				
授業内容	<p>1、人体の構造及び機能</p> <p>①人体の構造、機能に関する基本的事項について理解させる。</p> <p>②骨格、筋肉、各種臓器の種類、構造、機能について理解させる。</p> <p>③人体の調整機能（神経、内分泌、免疫）の仕組みについて理解</p> <p>④疾病との関連</p> <p>2、皮膚及び皮膚付属器官の構造及び機能</p> <p>①（毛髪、爪、脂腺、汗腺）の構造について理解させる。</p> <p>②皮膚の生理的作用について理解させるとともにこれらの美容との関連について学ばせる。</p> <p>③毛髪、爪の生理的意義と特性について美容技術との関連について理解させる。</p> <p>3、皮膚及び皮膚付属器官の保健衛生</p> <p>①皮膚、皮膚付属器官の状態に影響を与える因子にはどのようなものがあるかを知らせる。</p> <p>②これらを健康に保つための方法、美容の施術を安全かつ効果的に行うために注意すべき事項について学ぶ。</p> <p>4、皮膚、皮膚付属器官の疾患</p> <p>①主な皮膚、皮膚付属器官の疾患の種類、原因、症状、予防、治療法について美容の施術と関連づけながら学ぶ。</p> <p>②化粧品によるかぶれについて、その発生機序と予防との概略を述べ、美容の業務において注意すべき点は何かを学ぶ。</p> <p>5、学習指導上の留意事項</p> <p>①必要に応じて各種の模型、標本、スライド、ビデオなど視聴覚教材を用い観察を行う。</p> <p>②皮膚、毛髪の保健衛生については衛生管理と関連付けて体系的な知識、技術の習得に努める。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得				
評価方法	定期試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	必修	講義	日高 巧一郎	-	60
科目名	香粧品化学				
学習目標	1、香粧品は直接使用する物でありその使用方法を誤れば重大な健康被害を起こす恐れがあることからその化学的な性質を理解させ、正しく使用するための知識と適正な技術を学ばせることが重要である。				
授業内容	<p>①香粧品の化学 物質の相変化、溶液、酸アルカリ、酸化還元反応などの化学の基本原理について、美容技術の実例に即して理解させる。</p> <p>②化学薬品の取り扱い、溶液の調整法など化学の基本操作を身につけさせる。</p> <p>③石鹼、洗剤、化粧水、シャンプー、リンス、整髪料、養毛剤、除毛剤、パーマ液など美容において使用される主な香粧品の種類、使用目的成分、作用原理、使用上の注意について理解させる。</p> <p>2、学習指導上の留意事項</p> <p>①必要に応じて各種のスライド、ビデオ、などの視聴覚教材を用いたり、実験観察を行ったりして学習効果を高める。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得				
評価方法	定期試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	必修	講義	長倉 たづ子	美容室で4年以上の実務経験	60
科目名	文化論				
学習目標	1、古代からつながる各時代の中でファッションがどう変遷してきたかそれを認識しながら我が国、外国の歴史をみながら美的感覚を身につけ、また、美容師が常に求められている礼装の知識を和装、洋装に分け学ぶ。				
授業内容	<p>美容文化史</p> <p>①我が国における美容ファッションの変遷について知らせる。</p> <p>②海外における美容ファッションの変遷について知らせる。</p> <p>③流行を追う心理、流行が社会に及ぼす影響、流行が美容業において占める意義と役割について知らせる。</p> <p>④美容師、理容師に常に求められる礼装の知識を和装、洋装に分けて学ぶ。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得				
評価方法	定期試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	必修	講義	松浦 清華	美容室で14年 以上の実務経験	30
科目名	運営管理				
学習目標	1、経営とは何か、経営者が果たす役割や人を雇用する役割、顧客を満足させるサービスとは何かを学ばせ、労務管理の基本的理論について実例を交えながら学ばせる。				
授業内容	<p>マーケティング</p> <p>①マーケティングの基本的理論について実例を交えながら理解させる。</p> <p>経営管理</p> <p>①経営管理の基本的理論について学ぶ。</p> <p>②美容所の経営に必要な経理事務にかんする基本的事項を学ぶ。</p> <p>労務管理</p> <p>①労務管理の基本的理論について学ぶ。</p> <p>接客法</p> <p>①社会生活におけるエチケットの必要性、職場など社会生活の各部面におけるエチケットなどについて理解させる。</p> <p>②苦情処理など消費者対応の基本的事項について美容業における実例を交えて学ぶ。</p> <p>学習指導上の留意事項</p> <p>①美容所の経営に実態を見学させ、美容の経営管理について具体的な知識を習得させる</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得				
評価方法	定期試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	必修	講義	松浦 清華	美容室で14 年以上の実務 経験	150
科目名	美容技術理論				

<p>学習目標</p>	<p>1、技術指導の中で基本的理論をしっかり修得し、時代の流れに関係なくヘアファッションを生み出せる応用力を身につける。</p> <p>2、技術について知識を衛生的、能率的に実践する姿勢と習慣とを養い、工夫と創造の能力を身につけさせる。</p>
<p>授業内容</p>	<p>1、器具の取り扱い</p> <p>①人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる。</p> <p>②コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアロンについて、その種類、各部の名称、使用目的、形態と機能、選定法、基本的操作法、手入れ等を学ばせる。</p> <p>③ヘアドライヤー、ヘアスチーマー、ブラシ、布片類について、その種類、使用目的、形態と機能、手入れ法などを知らせる。</p> <p>④器具の材質、形態に応じた消毒法について、具体的に理解させるとともにその正確な実施方法、注意事項を身につけさせる。</p> <p>⑤その他の電気器具類、備品類、容器類などについて種類、各部の名称、使用目的、形態と機能、選定法、基本操作法、使用上の注意などを学ばせる。</p> <p>2、基本技術</p> <p>①技術の意義を学ばせ、技術を行う場合の心得を知らせる。</p> <p>②技術を行う場合の技術者の位置と姿勢、身体の機能その他考慮しなければならない基礎知識を知らせる。</p> <p>3、頭部処置</p> <p>スカルプトリートメント、ヘアトリートメント、ヘアシャンプー、ヘアリンス技術、ヘアカット、パーマントウエーブ、ヘアセッティングなどの基本的な頭部技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。</p> <p>※ 国家試験課題の練習で、美容師国家試験合格を目指す。</p> <p>第2課題 ワインディング技術 セッティング技術</p> <p>学習指導上の留意事項</p> <p>①美容所の作業の実態を見学させたり実務に携わる美容師の講和を聞かせたりなどして美容技術に関する具体的な知識を習得させるように努める。</p> <p>②必要に応じて実物を示したり、各種の模型、見本、OHP、ビデオなどの視聴覚教材を用いて学習効果を高める。</p> <p>③本課目は美容実習と相まって、美容師として必要な技術を身に着けさせるための基礎となる科目であるから、常に美容実習の履修状況に配慮しつつ、学習効果の向上に努める。</p>
<p>到達目標</p>	<p>美容師国家試験合格への基礎知識習得</p>
<p>評価方法</p>	<p>定期試験</p>

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	選択	講義・実技	松浦 清華	美容室で14年 以上の実務経験	900
科目名	美容実習				
学習目標	<p>1、美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するために基本的操作を確実に身につけさせるとともに、その基本的操作を適宜組み合わせて完成させる技術を習得させる。</p> <p>2、美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身につけさせる。</p> <p>3、個々の客に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身につけさせる。</p>				
授業内容	<p>各項目の内容</p> <p>①美容器具の操作方法、消毒方法、手入れ方法を確実に身につけさせる。</p> <p>②用途に適した美容器具の選定方法によって理解させ実践する能力を身につけさせる。</p> <p>基礎技術実習</p> <p>①美容技術を行う場合の位置、姿勢など美容技術を行う場合に必要な基本動作を身につけさせる。</p> <p>②施設の消毒など美容所の衛生管理のために必要な措置を確実に身につけさせること。 特に器具の消毒については、その重要性を十分に認識させるとともに、適正な方法で実施することを習慣づけが必要である。</p> <p>頭部技術実習</p> <p>①スカルプトリートメント、ヘアトリートメント、ヘアシャンプー、ヘアリンス技術、ヘアカット、パーマネントウェーブ、ヘアセッティングなどの基本的な頭部技術を確実に身につけさせる。</p> <p>②使用する器具の消毒を毎回身につけさせる。</p> <p>特殊技術実習</p> <p>①ヘアカラーリング、美顔術、化粧、マニキュア、ペディキュアなど美容の特殊技術を身につけさせる。</p> <p>和装技術実習</p> <p>①日本髪の結髪技術、かつらの合わせ方、かぶせ方、着付け技術を</p> <p>総合実習</p> <p>頭部、顔面、特殊技術を適当に組み合わせて調和のとれた美容技術を完成させるため、総合的な技術を身につけさせる。</p>				

学習指導上の留意事項

- ①生徒の技術習熟の状況を常に把握するため、生徒ごとに実習記録と評価とを作成する。
- ②実習の効果を生徒の間で評価させて、技術の向上のための刺激を与え、学習効果を高めるように努める。
- ③いたずらに新しい技術を追求することなく、基本的な技術を確実に修得できるよう指導する。
- ④常に美容技術理論の学習状況に配慮しつつ、理論と実習との相互の連携を図って美容師としての専門技術を効果的に修得させるよう努める。
- ⑤モデルを使用して行う美容実習の開始時期は、美容技術理論等必修科目であると認めたとうえで開始しなければならないこと。
- ⑥実習は美容師養成施設内で実習することを条件とするが、生徒の技術習熟条件に応じて、当該養成施設が作成した実習計画に基づく教育課程の一環管理美容師を配置する美容師において当該美容師に従事する美容師の適切な指導監督の下、美容行為及びその不随する作業（美容実習）を行うことが望ましい。実習
- ⑦美容師養成施設は、実務実習を適正かつ効果的に実施するため、あらかじめ実施計画と評価方法を作成しなければならない。⑧実施計画の作成にあたっては、生徒が基本的な、美容技術に習熟し、状況に応じて応用できる基本的能力を身につけさせることを目標に、段階的に技術の習得が」できるように配慮する。
- ⑨実務実習は、開始時期は、入所後概ね6ヶ月を経過してからとする。
- ⑩実務実習は、年間60時間（通信課程の生徒のうち美容所に常勤で従事している者に対しては20時間）を超えない範囲で行うものとする。  
なお、1日あたりの時間数については、実務実習、他の授業計画との調整及び受け入れ美容所の営業状況を勘案して、適切な時間数とする。
- ⑪実務実習を行う場合、美容養成施設は、次の要件に適合する美容所に生徒の受け入れを依頼しなければならない。  
ア、管理美容師の資格を有しかつ、適切な指導監督のできる美容師がいること  
イ、当該美容所で受け入れる生徒数に応じた設備を有すること。  
ウ、当該美容所の経営方法が適切かつ確実なものであること。
- ⑫実務実習の指導は、美容養成施設が作成した実施計画に基づいて、当該美容所の美容師が行う。
- ⑬実務実習を受ける生徒は、美容師の資格を取得しておらず、独立して業務を行うことができないのであるから、指導にあたる美容師の十分な監督のもとで実習を行わせなければならない。
- ⑭指導にあたった美容師は生徒ごとに作成した実務記録を美容師養成施設に提出し、これに元図いて当該養成施設が実務実習の評価を行う。

到達目標

美容師国家試験合格への基礎知識習得

評価方法

定期試験



対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	選択	講義・実技	松浦 清華	美容室で14年 以上の実務経験	300
科目名	美容総合技術				
授業内容	<p>1、必修科目において修得した基本的技術を基にさらに発展させた高度な技術を身に付けさせるとともに美容デザインの最新の動向を学ばせる。</p> <p>2、常に新しい技術の吸収を怠らず、また、また、自らも新しい技術の開発に努める姿勢を習慣づけさせ、専門技術者としての心構えを身につけさせる。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得				
評価方法	定期試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	選択	講義・実技	森田 麻友美	美容室で10年 以上の実務経験	100
科目名	メイクアップ				
授業内容	<p>1、メイクアップは近年ますます重要性を増してきているそれは、単に外見を、美しく見せるのではなく気持ちまでも明るく変えてしまうからです。</p> <p>そのためには、お客様とのカウンセリングを的確に行い、信頼を得ることが大切で繰り返し反復練習を重ね、上達してゆくようレベルを上げる。</p> <p>2、実際にメイクが必要とされるあらゆる場所（冠婚葬祭）やパーティなど基礎メイクアップを完成させたのちファッションメイクまでを学ばせる。</p> <p>①メイクアップアーティストとしての心構え、</p> <p>②顔の名称</p> <p>③フェースプロポーション 顔のプロポーションは民族、年代、地域性によっても異なっているので知ることが大切。</p> <p>④メイクアップ順序の一例から学ぶ。</p> <p>⑤各種メイクの仕方</p> <p>⑥カウンセリング</p>				
到達目標	メイクの基礎を習得				
評価方法	定期試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	選択	講義・実習	市坪 正志	美容室で4年以上の実務経験	60
科目名	トータルファッションヘアスタイル画				
授業内容	<p>1、美容師は仕事から造形的な創作に携わる職業と言える。その創作においてデザイン画を描くということが不可欠な条件となりデッサンの技術、知識を学ばせデザインの技術を身につけさせる</p> <p>①ヘアスタイルを描く場合、描く線の長さによってスタイルが変わってしまう。手ができるだけ動くように。短時間で形のよいプロポーションをマスターするため目、鼻、口などの位置づけを数的に覚えさせ、部分的な描き方をマスターさせる。</p> <p>②いろいろな描き方をマスターしたらさらに応用で細やか表現を学び、ファッションイラストでは体全体、着衣を描き、デザインの技術を身につけてゆく。</p>				
到達目標	ヘアスタイル画を通じてデザイン力を習得				
評価方法	定期試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	選択	講義・実習	松浦 清華	美容室で14年以上の実務経験	60
科目名	接 遇				
授業内容	<p>1、挨拶や言葉づかい、態度、しぐさなどに気を配り、社会人としてのマナーやこころづかい、コミュニケーション能力などを意識してしっかり身につけていく。</p> <p>2、一般的なビジネスマナーをベースに美容業に特化し、サロン業務を想定し接遇マナーを学ぶ。</p> <p>①美容業としての職業観が一層高まり、目標が明確になるよう学ぶ。</p> <p>②社会生活を身に着つける。</p> <p>③サロンワークに必要な基本的な言葉使い、態度を身につけさせる。</p>				
到達目標	美容室でのマナー・接遇の習得				
評価方法	定期試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 1年次	選択	講義	松田 久美子	美容室で4年以上の実務経験	80
科目名	カウンセリング				
授業内容	<p>1、人間の心の動きや仕組みの基礎知識を学び、現場で構えず自然体でカウンセリングやコンサルティングができるようになるため、自己理解を高め自分の神的衛生管理をしっかりとできるよう学ぶ。</p> <p>カウンセリング概論</p> <p>①カウンセリングの手法            カウンセラーはクライアントの話を傾聴し何を求めているかを把握し的確に相談にのる。その方法を10種類程度に分類し、問題や悩みを解決する糸口とする。</p> <p>②カウンセラーに必要な基礎知識            個人情報保護や心の仕組みと働きコミュニケーションのとり方、カウンセリングのプロセスなど上達すると自然な流れの中でできるよう最初の定型をしっかりと身につけ傾聴してゆくことが大切であることを知らせ、相談技法を学んでゆくこと。</p> <p>③美容技術の中でのコンサルティング            ア、美容室でのコンサルティングの意義            美容室でのコンサルティングの必要性、コンサルティングを正しく行うためにお客様の要望やサロンの料金設定、年齢差のギャップ等を理解し、お客様に誠心誠意、自信をもって接することが引き続き必要であることを学ぶ。</p> <p>イ、美容技術の中でのコンサルティング            ウ、毛髪診断            エ、パーマ技術前のコンサルティング            オ、ヘアカラー施術前のコンサルティング            カ、その他の技術前のコンサルティング</p>				
到達目標	カウンセリングの知識を習得				
評価方法	定期試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	必修	講義	猪俣 寛子	-	30
科目名	関係法規・制度				
学習目標	<p>1、美容師の業務に係る衛生法規・制度について正しい知識を習得させ美容師の社会的責務、職業倫理について促し、学ぶ。</p> <p>2、美容の業務に関する規定内容を正確に理解させ、衛生法規が美容業を行う場合の指針として有する意義を把握させる。</p> <p>3、国家試験問題に合格する学力を身につける。</p>				
授業内容	<p>衛生行政の概要</p> <p>①衛生行政の意義と歴史</p> <p>②衛生行政の分類と生活衛生行政の内容 我が国の行政の仕組み、国の行政と地方の行政との関連などについて理解させる。</p> <p>③衛生行政を担う行政機関 衛生行政の種類など衛生行政の意義について学ぶ。</p> <p>美容師法・理容師法 美容師がどのような沿革を経て現在の姿になったかを知らせ、これらの法律の目的と意義について理解させる。</p> <p>①用語の定義 法律でどのように定義されているか理解させる。</p> <p>②理容師美容師に関する規定 免許制度、免許手続き、免許の欠格要件、免許の登録などを理解させる。</p> <p>③施設に関する規定 業務上の遵守事項、業務を行う場所などに関する法律の規定について理解させる。</p> <p>④立入検査と環境衛生監視員 美容所の開設、届出、施設の検査確認、美容所が講じなければならない衛生措置に関する規則の内容を理解させる。</p> <p>⑤違反者に対する行政処分 免許取消、業務停止、などの内容を理解させる。</p> <p>⑥罰則 罰則についての内容理解。</p> <p>関連法規 ①運営に関連する法律 ②衛生に関連する法律 ③消費者に関連する法律</p> <p>※ 学習指導上の留意事項 国家試験対策（ワークブック・過去問 自作問題）で、基礎学力の確認と応用問題により、美容師国家試験合格への学力を身に付ける。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得と応用問題の対応力を養う。				
評価方法	定期試験 卒業試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	必修	講義	市坪 正志	美容室で4年以上の実務経験	90
科目名	衛生管理				
学習目標	<p>1、美容師が公衆衛生の維持と増進について重大な責務を担わなければ理由を十分に理解させ、感染症予防、環境衛生の保持、美容所における消毒の意義と目的について学ぶ。</p> <p>2、国家試験問題に合格する学力を身につける。</p>				
授業内容	<p>公衆衛生概要</p> <p>①公衆衛生の意義について理解させる。公衆衛生が日常生活、あるいは美容とどのように結びつくか、公衆衛生の発展工場のために何をすべきかを理解させる。</p> <p>②公衆衛生の発展の歴史を概観し、公衆衛生の思想がどのように発展してきたかを知らせる。</p> <p>③对人的な予防衛生と対物的な環境衛生とに大別されることをしらせ、さらに環境衛生が健康で文化的な生活の基盤のなすものであることを理解させる。</p> <p>④保健所の機能、業務などにつて知らせ、美容所と保健所の密接な関係を理解させる。</p> <p>環境衛生</p> <p>①環境衛生の意義と内容を理解させるとともに美容所において特に注意しなければならない点を理解させる。</p> <p>②美容所の衛生措置、特に消毒の意義について感染症対策と関連付けて学ぶ。</p> <p>③美容所の廃棄物処理、環境保全対策について理解させる。</p> <p>感染症</p> <p>①美容の業務を行う上でどのような感染症に注意すべきか具体的に示し、予防対策について系統的に理解させる。</p> <p>②美容所における衛生措置、とくに消毒について、感染症対策と関連づけて理解させる。</p> <p>衛生管理技術</p> <p>①美容所における衛生管理、特に消毒の意義と目的について理解させる。</p> <p>②消毒方法の種類、原理、特徴について具体的に説明。</p> <p>③美容器具などの対象の材質、構造などに応じ、適切な消毒の選択と適正な実施方法について学ぶ。</p> <p>※ 学習指導上の留意事項 国家試験対策（ワークブック・過去問 自作問題）で、基礎学力の確認と応用問題により、美容師国家試験合格への学力を身に付ける。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得と応用問題への対応力を養う。				
評価方法	定期試験 卒業試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	必修	講義	松田 久美子	美容室で4年以上の実務経験	90
科目名	保健				
学習目標	<p>①美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚、毛髪などの構造と機能に関する科学的系統的な知識を学ぶ。</p> <p>②美容の業務を安全かつ効果的に行うには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させる。</p> <p>2、国家試験問題に合格する学力を身につける。</p>				
授業内容	<p>1、人体の構造及び機能</p> <p>①人体の構造、機能に関する基本的事項について理解させる。</p> <p>②骨格、筋肉、各種臓器の種類、構造、機能について理解させる。</p> <p>③人体の調整機能（神経、内分泌、免疫）の仕組みについて理解</p> <p>④疾病との関連</p> <p>2、皮膚及び皮膚付属器官の構造及び機能</p> <p>①（毛髪、爪、脂腺、汗腺）の構造について理解させる。</p> <p>②皮膚の生理的作用について理解させるとともにこれらの美容との関連について学ばせる。</p> <p>③毛髪、爪の生理的意義と特性について美容技術との関連について理解させる。</p> <p>3、皮膚及び皮膚付属器官の保健衛生</p> <p>①皮膚、皮膚付属器官の状態に影響を与える因子にはどのようなものがあるかを知らせる。</p> <p>②これらを健康に保つための方法、美容の施術を安全かつ効果的に行うために注意すべき事項について学ぶ。</p> <p>4、皮膚、皮膚付属器官の疾患</p> <p>①主な皮膚、皮膚付属器官の疾患の種類、原因、症状、予防、治療法について美容の施術と関連づけながら学ぶ。</p> <p>②化粧品によるかぶれについて、その発生機序と予防との概略を述べ、美容の業務において注意すべき点は何かを学ぶ。</p> <p>5、学習指導上の留意事項</p> <p>①必要に応じて各種の模型、標本、スライド、ビデオなど視聴覚教材を用い観察を行う。</p> <p>②皮膚、毛髪の保健衛生については衛生管理と関連付けて体系的な知識、技術の習得に努める。</p> <p>※ 学習指導上の留意事項 国家試験対策（ワークブック・過去問 自作問題）で、基礎学力の確認と応用問題により、美容師国家試験合格への学力を身に付ける。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得と応用問題への対応力を養う。				
評価方法	定期試験 卒業試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	必修	講義	日高 巧一郎	-	60
科目名	香粧品化学				
学習目標	<p>1、香粧品は直接使用する物でありその使用方法を誤れば重大な健康被害を起こす恐れがあることからその化学的な性質を理解させ、正しく使用するための知識と適正な技術を学ばせることが重要である。</p> <p>2、国家試験問題に合格する学力を身につける。</p>				
授業内容	<p>①香粧品の化学 物質の相変化、溶液、酸アルカリ、酸化還元反応などの化学の基本原理について、美容技術の実例に即して理解させる。</p> <p>②化学薬品の取り扱い、溶液の調整法など化学の基本操作を身につけさせる。</p> <p>③石鹼、洗剤、化粧水、シャンプー、リンス、整髪料、養毛剤、除毛剤、パーマ液など美容において使用される主な香粧品の種類、使用目的成分、作用原理、使用上の注意について理解させる。</p> <p>※ 学習指導上の留意事項 国家試験対策（ワークブック・過去問 自作問題）で、基礎学力の確認と応用問題により、美容師国家試験合格への学力を身に付ける。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得と応用問題への対応力を養う。				
評価方法	定期試験 卒業試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	必修	講義	長倉 たづ子	美容室で4年以上の実務経験	60
科目名	文化論				
学習目標	<p>1、古代からつながる各時代の中でファッションがどう変遷してきたかそれを認識しながら我が国、外国の歴史をみながら美的感覚を身につけ、また、美容師が常に求められている礼装の知識を和装、洋装に分け学ぶ。</p> <p>2、国家試験問題に合格する学力を身につける。</p>				
授業内容	<p>美容文化史</p> <p>①我が国における美容ファッションの変遷について知らせる。</p> <p>②海外における美容ファッションの変遷について知らせる。</p> <p>③流行を追う心理、流行が社会に及ぼす影響、流行が美容業において占める意義と役割について知らせる。</p> <p>④美容師、理容師に常に求められる礼装の知識を和装、洋装に分けて学ぶ。</p> <p>※ 学習指導上の留意事項 国家試験対策（ワークブック・過去問 自作問題）で、基礎学力の確認と応用問題により、美容師国家試験合格への学力を身に付ける。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得と応用問題への対応力を養う。				
評価方法	定期試験 卒業試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
2年次	必修	講義	松浦 清華	美容室で14年以上の実務経験	30
科目名	運営管理				
学習目標	<p>1、経営とは何か、経営者が果たす役割や人を雇用する役割、顧客を満足させるサービスとは何かを学ばせ、労務管理の基本的理論について実例を交えながら学ばせる。</p> <p>2、国家試験問題に合格する学力を身につける。</p>				
授業内容	<p>マーケティング</p> <p>①マーケティングの基本的理論について実例を交えながら理解させる。</p> <p>経営管理</p> <p>①経営管理の基本的理論について学ぶ。</p> <p>②美容所の経営に必要な経理事務にかんする基本的事項を学ぶ。</p> <p>労務管理</p> <p>①労務管理の基本的理論について学ぶ。</p> <p>接客法</p> <p>①社会生活におけるエチケットの必要性、職場など社会生活の各部門におけるエチケットなどについて理解させる。</p> <p>②苦情処理など消費者対応の基本的事項について美容業における実例を交えて学ぶ。</p> <p>学習指導上の留意事項</p> <p>①美容所の経営に実態を見学させ、美容の経営管理について具体的な知識を習得させる</p> <p>※ 学習指導上の留意事項</p> <p>国家試験対策（ワークブック・過去問 自作問題）で、基礎学力の確認と応用問題により、美容師国家試験合格への学力を身に付ける。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得と応用問題への対応力を養う。				
評価方法	定期試験 卒業試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	必修	講義	工藤 夢奈	美容室で14年以上の実務経験	150
科目名	美容技術理論				
学習目標	1、技術について知識を衛生的、能				



	<p>率的に実践する姿勢と習慣とを養い、工夫と創造の能力を身につけさせる。</p> <p>2、国家試験問題に合格する学力を身につける。</p>
授業内容	<p>4、特殊技術 ヘアカラーリング、美顔術、マニキュア、ペディキュアなどの美容の特集技術の目的、種類、特徴、技術上の注意点などを学ばせる。</p> <p>3、和装技術 ①日本髪の基本知識、技術の実際について学ばせる。 ②和装に対する一般知識、着付技術について学ばせる。</p> <p>学習指導上の留意事項 ①美容所の作業の実態を見学させたり実務に携わる美容師の講和を聞かせたりなどして美容技術に関する具体的な知識を習得させるように努める。 ②必要に応じて実物を示したり、各種の模型、見本、OHP、ビデオなどの視聴覚教材を用いて学習効果を高める。 ③本課目は美容実習と相まって、美容師として必要な技術を身に付けさせるための基礎となる科目であるから、常に美容実習の履修状況に配慮しつつ、学習効果の向上に努める。</p> <p>※ 国家試験対策（ワークブック・過去問 自作問題）で、基礎学力の確認と応用問題により、美容師国家試験合格への学力を身に付ける。</p>
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得と応用問題への対応力を養う。
評価方法	定期試験 卒業試験

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	選択	講義・実技	工藤 夢奈	美容室で14年 以上の実務経験	900
科目名	美容実習				
学習目標	<p>1、美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するために基本的操作を確実に身につけさせるとともに、その基本的操作を適宜組み合わせる技術で完成させる技術を習得させる。</p> <p>2、美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせる。</p> <p>3、個々の客に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせる。</p> <p>2、国家試験問題に合格する技術力を身につける。</p>				

授業内容

各項目の内容

- ①美容器具の操作方法、消毒方法、手入れ方法を確実に身につけさせる。
- ②用途に適した美容器具の選定方法によって理解させ実践する能力を身につけさせる。

基礎技術実習

- ①美容技術を行う場合の位置、姿勢など美容技術を行う場合に必要な基本動作を身につけさせる。
- ②施設の消毒など美容所の衛生管理のために必要な措置を確実に身につけさせること。特に器具の消毒については、その重要性を十分に認識させるとともに、適正な方法で実施することを習慣づけが必要である。

頭部技術実習

- ①スカルプトリートメント、ヘアトリートメント、ヘアシャンプー、ヘアリンス技術、ヘアカット、パーマネントウェーブ、ヘアセッティング、マーセルウエービングなどの基本的な頭部技術を確実に身につけさせる。
- ②使用する器具の消毒を毎回身につけさせる。

特殊技術実習

- ①ヘアカラーリング、美顔術、化粧、マニキュア、ペディキュアなど美容の

特殊技術を身につけさせる。

和装技術実習

- ①日本髪の結髪技術、かつらの合わせ方、かぶせ方、着付け技術を

総合実習

頭部、顔面、特殊技術を適当に組み合わせて調和のとれた美容技術を完成させるため、総合的な技術を身につけさせる。

※ 国家試験課題の練習で、美容師国家試験合格を目指す。

第1課題 カット技術

第2課題 ワインディング技術

セッティング技術

学習指導上の留意事項

- ①生徒の技術習熟の状況を常に把握するため、生徒ごとに実習記録と評価とを作成する。
- ②実習の効果を生徒の間で評価させて、技術の向上のための刺激を与え、学習効果を高めるように努める。
- ③いたずらに新しい技術を追求することなく、基本的な技術を確実に修得させるよう指導する。

	<p>④常に美容技術理論の学習状況に配慮しつつ、理論と実習との相互の連携を図って美容師としての専門技術を効果的に修得させるよう努める。</p> <p>⑤モデルを使用して行う美容実習の開始時期は、美容技術理論等必修科目であると認めたくえで開始しなければならないこと。</p> <p>⑥実習は美容師養成施設内で実習することを条件とするが、生徒の技術習熟条件に応じて、当該養成施設が作成した実習計画に基づく教育課程の一環管理美容師を配置する美容師において当該美容師に従事する美容師の適切な指導監督の下、美容行為及びその不随する作業（美容実習）を行うことが望ましい。実習</p> <p>⑦美容師養成施設は、実務実習を適正かつ効果的に実施するため、あらかじめ実施計画と評価方法を作成しなければならない。⑧実施計画の作成にあたっては、生徒が基本的な、美容技術に習熟し、状況に応じて応用できる基本的能力を身につけさせることを目標に、段階的に技術の習得が」できるように配慮する。</p> <p>⑨実務実習は、開始時期は、入所後概ね6ヶ月を経過してからとする。</p> <p>⑩実務実習は、年間60時間（通信課程の生徒のうち美容所に常勤で従事している者に対しては20時間）を超えない範囲で行うものとする。      なお、1日あたりの時間数については、実務実習、他の授業計画との調整及び受け入れ美容所の営業状況を勘案して、適切な時間数とする。</p> <p>⑪実務実習を行う場合、美容養成施設は、次の要件に適合する美容所に生徒の受け入れを依頼しなければならない。      ア、管理美容師の資格を有しかつ、適切な指導監督のできる美容師がいること      イ、当該美容所で受け入れる生徒数に応じた設備を有すること。      ウ、当該美容所の経営方法が適切かつ確実なものであること。</p> <p>⑫実務実習の指導は、美容養成施設が作成した実施計画に基づいて、当該美容所の美容師が行う。</p> <p>⑬実務実習を受ける生徒は、美容師の資格を取得しておらず、独立して業務を行うことができないのであるから、指導にあたる美容師の十分な監督のもとで実習を行わせなければならない。</p> <p>⑭指導にあたった美容師は生徒ごとに作成した実務記録を美容師養成施設に提出し、これに元図いて当該養成施設が実務実習の評価を行う。</p>
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得と応用問題への対応力を養う。
評価方法	定期試験 卒業試験

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	選択	講義・実技	工藤 夢奈	美容室で14年 以上の実務経験	300
科目名	美容総合技術				
授業内容	<p>1、必修科目において修得した基本的技術を基にさらに発展させた高度な技術を身に付けさせるとともに美容デザインの最新の動向を学ばせる。</p> <p>2、常に新しい技術の吸収を怠らず、また、また、自らも新しい技術の開発に努める姿勢を習慣づけさせ、専門技術者としての心構えを身につけさせる。</p> <p>2、国家試験問題に合格する技術力を身につける。</p>				
到達目標	美容師国家試験合格への基礎知識習得と応用問題への対応力を養う。				
評価方法	定期試験 卒業試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	選択	講義・実技	森田 麻友美	美容室で10年 以上の実務経験	100
科目名	メイクアップ				
授業内容	<p>1、メイクアップは近年ますます重要性を増してきているそれは、単に外見を、美しく見せるのではなく気持ちまでも明るく変えてしまうからです。</p> <p>そのためには、お客様とのカウンセリングを的確に行い、信頼を得ることが大切で繰り返し反復練習を重ね、上達してゆくようレベルを上げる。</p> <p>2、実際にメイクが必要とされるあらゆる場所（冠婚葬祭）やパーティなど基礎メイクアップを完成させたのちファッションメイクまでを学ばせる。</p> <p>①メイクアップアーティストとしての心構え、</p> <p>②顔の名称</p> <p>③フェースプロポーション 顔のプロポーションは民族、年代、地域性によっても異なっているので知ることが大切。</p> <p>④メイクアップ順序の一例から学ぶ。</p> <p>⑤各種メイクの仕方</p> <p>⑥カウンセリング</p>				
到達目標	メイクの基礎を習得				
評価方法	定期試験 卒業試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	選択	講義・実習	市坪 正志	美容室で4年以上の実務経験	60
科目名	トータルファッションヘアスタイル画				
授業内容	<p>1、美容師は仕事から造形的な創作に携わる職業と言える。その創作においてデザイン画を描くということが不可欠な条件となりデッサンの技術、知識を学ばせデザインの技術を身につけさせる</p> <p>①ヘアスタイルを描く場合、描く線の長さによってスタイルが変わってしまう。手ができるだけ動くように。短時間で形のよいプロポーションをマスターするため目、鼻、口などの位置づけを数的に覚えさせ、部分的な描き方をマスターさせる。</p> <p>②いろいろな描き方をマスターしたらさらに応用で細やか表現を学び、ファッションイラストでは体全体、着衣を描き、デザインの技術を身につけてゆく。</p>				
到達目標	ヘアスタイル画を通じてデザイン力を習得				
評価方法	定期試験 卒業試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	選択	講義・実習	工藤 夢奈	美容室で14年以上の実務経験	60
科目名	接 遇				
授業内容	<p>1、挨拶や言葉づかい、態度、しぐさなどに気を配り、社会人としてのマナーやこころづかい、コミュニケーション能力などを意識してしっかり身につけていく。</p> <p>2、一般的なビジネスマナーをベースに美容業に特化し、サロン業務を想定し接遇マナーを学ぶ。</p> <p>①美容業としての職業観が一層高まり、目標が明確になるよう学ぶ。</p> <p>②社会生活を身に着つける。</p> <p>③サロンワークに必要な基本的な言葉使い、態度を身につけさせる。</p>				
到達目標	美容室でのマナー・接遇の習得				
評価方法	定期試験 卒業試験				

対象学年	科目区分	授業方式	担当者	実務経験	時間数
昼間課程 2年次	選択	講義	松田 久美子	美容室で4年以上の実務経験	80
科目名	カウンセリング				
授業内容	<p>1、人間の心の動きや仕組みの基礎知識を学び、現場で構えず自然体でカウンセリングやコンサルティングができるようになるため、自己理解を高め自分の神的衛生管理をしっかりとできるよう学ぶ。</p> <p>カウンセリング概論</p> <p>①カウンセリングの手法            カウンセラーはクライアントの話を傾聴し何を求めているかを把握し的確に相談にのる。その方法を10種類程度に分類し、問題や悩みを解決する糸口とする。</p> <p>②カウンセラーに必要な基礎知識            個人情報の保護や心の仕組みと働きコミュニケーションのとり方、カウンセリングのプロセスなど上達すると自然な流れの中でできるよう最初の定型をしっかりと身につけ傾聴してゆくことが大切であることを知らせ、相談技法を学んでゆくこと。</p> <p>③美容技術の中でのコンサルティング            ア、美容室でのコンサルティングの意義            美容室でのコンサルティングの必要性、コンサルティングを正しく行うためにお客様の要望やサロンの料金設定、年齢差のギャップ等を理解し、お客様に誠心誠意、自信をもって接することが引き続き必要であることを学ぶ。</p> <p>イ、美容技術の中でのコンサルティング            ウ、毛髪診断            エ、パーマ技術前のコンサルティング            オ、ヘアカラー施術前のコンサルティング            カ、その他の技術前のコンサルティング</p>				
到達目標	カウンセリングの知識を習得				
評価方法	定期試験 卒業試験				